

調査計画

1 調査の名称（☒特定一般統計調査 ☐その他の一般統計調査）

歯科疾患実態調査

2 調査の目的

本調査は、わが国の歯科保健状況を把握し、8020運動(歯科保健推進事業等)の種々の対策の効果についての検討等、今後の歯科保健医療対策を推進するための次期の目標設定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

3 調査対象の範囲

(1) 地域的範囲（☒全国 ☐その他）

全国

(2) 属性的範囲（☒個人 ☐世帯 ☐事業所 ☐企業・法人・団体 ☐地方公共団体 ☐その他）

満1歳以上の世帯員

4 報告を求める個人又は法人その他の団体

(1) 報告者数

約15,000人（母集団の大きさ：約1億2500万人（満1歳以上総人口））

（注）本調査の計画作成時期までに同年の国民生活基礎調査の報告者数は確定していないため、本計画の報告者数は、国民生活基礎調査の報告が得られると見込まれる世帯員数を記載している。

(2) 報告者の選定方法（☐全数 ☒無作為抽出（☐全数階層あり） ☐有意抽出）

国民生活基礎調査の調査区に設定された単位区から、300単位区を無作為に抽出し、当該単位区内の満1歳以上の世帯員を報告者とする。（300単位区内の満1歳以上の世帯員総数は約15,000人）。

なお、国民生活基礎調査の報告が得られなかった世帯員については、報告を求めない。

5 報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間

(1) 報告を求める事項

- 1) 歯や口の状態
- 2) 歯をみがく頻度
- 3) 歯や口の清掃状況

- 4) 過去1年間における歯科検診受診の有無
- 5) 過去1年間におけるフッ化物応用の有無
- 6) 矯正歯科治療の経験の有無
- 7) 歯・補綴の状況
- 8) 歯肉の状況

(注) 報告者の性別及び年齢については、本調査の被調査者名簿を活用することとし、本調査では求めない。

[集計しない事項の有無] ☒ 無 ☐ 有

(2) 基準となる期日又は期間

令和4年11月又は12月中の各保健所が定める任意の1日

6 報告を求めるために用いる方法

(1) 調査系統

厚生労働省一都道府県、保健所設置市、特別区一保健所一調査員一報告者

(2) 調査方法

- ☒ 郵送調査 ☐ オンライン調査 (☐ 政府統計共同利用システム ☐ 独自のシステム ☐ 電子メール)
- ☒ 調査員調査 ☐ その他 ()

[調査方法の概要]

- ① 調査対象となる単位区の世帯員(報告者)に対して、調査員が事前に訪問し、本調査の実施に係る案内状を配布して、あらかじめ定めた調査日に、会場に参集することを求める。
- ② 会場に参集した報告者に調査票を配布し、前記5(1)の1)～4)の記入を求める。
- ③ その後、調査員において、報告者が前記②により記載した内容を確認するとともに、歯科医師である調査員が、報告者の口腔内診査及び問診を行い、前記5(1)の5)～8)を記入する。
- ④ 口腔内診査及び問診が行えなかった報告者に対しては、7(2)までに、前記5(1)の1)～4)を記入の上、郵送により提出することを求める。

7 報告を求める期間

(1) 調査の周期

☐ 1回限り ☐ 毎月 ☐ 四半期 ☐ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年 ☒ 5年 ☐ 不定期 ☐ その他 ()

(1年を超える場合又は不定期の場合の直近の実施年：平成28年)

(2) 調査の実施期間又は調査票の提出期限

令和4年11月1日～12月31日

(注) 調査の周期に基づき行う予定であった令和3年調査については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止

8 集計事項

- ・ 被調査者数に関する事項
- ・ 歯や口の状態に関する事項
- ・ 歯ブラシの使用状況に関する事項
- ・ 歯科検診の受診状況に関する事項
- ・ 歯や口の清掃状況に関する事項
- ・ フッ化物の状況に関する事項
- ・ 矯正歯科治療の経験の有無に関する事項
- ・ 乳歯う蝕及び永久歯う蝕の状況に関する事項
- ・ 永久歯う蝕の状況および保有（喪失）状況に関する事項
- ・ 補綴の状況に関する事項
- ・ 歯肉の状況に関する事項
- ・ 歯数の合計値・平均値・標準偏差に関する事項
- ・ 永久歯に関する事項

(集計事項一覧については、別紙参照)

9 調査結果の公表の方法及び期日

- (1) 公表・非公表の別 (■全部公表 □一部非公表 □全部非公表)
- (2) 公表の方法 (■e-Stat □インターネット (e-Stat以外) ■印刷物 □閲覧)
- (3) 公表の期日

概要については令和5年6月、結果表については同年11月に行う。

10 使用する統計基準等

- 使用する→□日本標準産業分類 □日本標準職業分類 □その他 ()
- 使用しない

本調査は個人を対象として歯や口内の状態等を把握する調査であり、調査対象の範囲の画定及び集計結果の表示に、統計基準を用いる余地が小さいことから、いずれの統計基準も使用しない。

11 調査票情報の保存期間及び保存責任者

(1) 調査票情報の保存期間

- ・記入済み調査票：集計結果確定後、1年
- ・調査票の内容を記録した電磁的記録媒体：常用

(2) 保存責任者

厚生労働省医政局歯科保健課長

別紙

令和 4 年歯科疾患実態調査集計一覧（案）

(150項目)

前回調査（平成28年）から追加した項目

被調査者数（5項目）

1	被調査者数（口腔診査、質問紙）、性・年齢階級別
2	被調査者数（口腔診査、質問紙）、性・年齢別
3	被調査者数の推移（1957～2022年）、年齢階級別
4	被調査者数（口腔診査）、地域・性・年齢階級別
5	被調査者数（口腔診査、質問紙）、地域・性別

歯や口の状態（2項目）

1	歯や口の状態、性・年齢階級別（1歳以上）
2	歯や口の状態、地域・性・年齢階級別（1歳以上）

歯ブラシの使用状況（5項目）

1	歯ブラシの使用状況、性・年齢階級別（1歳以上）
2	歯ブラシの使用状況および被調査者の平均年齢、地域別（1歳以上）
3	歯ブラシの使用状況の推移（1969～2022年）、総数（1歳以上）
4	歯ブラシの使用状況の推移（1969～2022年）、年齢階級別（1歳以上）
5	歯ブラシの使用状況（毎日2回以上歯をみがく者の人数・割合）、地域・性・年齢階級別（1歳以上）

歯科検診の受診状況（2項目）

1	歯科検診の受診の有無、性・年齢階級別（1歳以上）
2	歯科検診の受診の有無、地域・性・年齢階級別（1歳以上）

歯や口の清掃状況(2項目)

1	歯や口の清掃状況、性・年齢階級別（1歳以上）
2	歯や口の清掃状況、地域・性・年齢階級別（1歳以上）

フッ化物の状況（4項目）

1	フッ化物応用の経験の有無、性・年齢別
2	フッ化物塗布経験者の割合、総数（1～14歳）
3	フッ化物塗布経験者の割合、年齢別（1～14歳）
4	フッ化物応用の経験の有無、地域別

矯正歯科治療の経験の有無（2項目）

1	矯正歯科治療の経験の有無、性・年齢階級別（3歳以上）
2	矯正歯科治療の経験の有無、地域・性・年齢階級別（3歳以上）

乳歯う蝕の状況(16項目)

1	う蝕(df)歯の有無とその処置状況（人数・割合）、性・年齢別（1～14歳・乳歯）
2	う蝕有病者率・未処置歯保有者率の推移（1957～2022年）、年齢別（1～14歳・乳歯）
3	う蝕(df)歯の有無とその処置状況（人数・割合）、地域・性・年齢別（1～14歳・乳歯）
4	現在歯数の頻度分布、性・年齢別（1～14歳・乳歯）
5	健全歯数の頻度分布、性・年齢別（1～14歳・乳歯）
6	未処置(d)歯数の頻度分布、性・年齢別（1～14歳・乳歯）
7	処置(f)歯数の頻度分布、性・年齢別（1～14歳・乳歯）
8	う蝕(df)歯数の頻度分布、性・年齢別（1～14歳・乳歯）
9	1人平均健全歯数・う蝕(df)歯数・未処置(d)歯数・処置(f)歯数、性・年齢別（1～14歳・乳歯）
10	1人平均う蝕(df)歯数・未処置(d)歯数・処置(f)歯数およびパーセンタイル値、年齢階級別（1～14歳・乳歯）
11	1人平均健全歯数・処置(f)歯数（処置の内容別）・未処置(d)歯数、年齢階級別（1～14歳・乳歯）
12	1人平均健全歯数・処置(f)歯数（処置の内容別）・未処置(d)歯数、性・年齢別（1～14歳・乳歯）
13	1人平均う蝕(df)歯数の推移（1957～2022年）、年齢別（1～14歳・乳歯）
14	1人平均う蝕(df)歯数、地域・性・年齢別（1～14歳・乳歯）
15	各歯におけるう蝕(df)歯のある者の割合、年齢別（1～14歳・乳歯）
16	う蝕罹患型－0・A・B・C1・C2型別分類（人数・割合）、性・年齢別（1～4歳・乳歯）

乳歯う蝕および永久歯う蝕の状況(2項目)

1	う蝕(dfまたはDMF)歯の有無とその処置状況（人数・割合）、性・年齢別（5～14歳・乳歯＋永久歯）
2	1人平均う蝕(dfおよびDMF)歯数、年齢別（5～14歳・乳歯＋永久歯）

永久歯う蝕の状況および保有（喪失）状況34項目

1	う蝕(DMF)歯の有無（歯冠・歯根別）（人数・割合）、地域・性・年齢階級別（5歳以上・永久歯）
---	---

2	う蝕 (DMF) 歯の有無 (歯冠・歯根別) とその処置状況 (人数・割合)、性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
3	う蝕 (DMF) 歯の有無 (歯冠・歯根別) とその処置状況 (人数・割合)、地域・性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
4	未処置または処置 (DF) 歯保有者率および未処置 (D) 歯保有者率の推移 (1957～2022年)、年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
5	1人平均健全歯数・未処置 (D) 歯数・処置 (F) 歯数 (歯冠・歯根別) ・喪失 (M) 歯数・う蝕 (DMF) 歯数、性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
6	1人平均現在歯数・健全歯数・う蝕 (DMF) 歯数 (歯冠・歯根別)、年齢別 (5歳以上・永久歯)
7	1人平均う蝕 (DMF) 歯数 (歯冠・歯根別) およびパーセンタイル値、年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
8	1人平均健全歯数・処置 (F) 歯数 (処置の内容別) ・未処置 (D) 歯数 (歯冠・歯根別)、性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
9	1人平均う蝕 (DMF) 歯数の推移 (1957～2022年)、年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
10	1人平均う蝕 (DMF) 歯数 (歯冠・歯根別)、地域・性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
11	各歯におけるう蝕 (DMF) 歯のある者の割合、年齢階級別 (5～44歳・永久歯)
12	1人平均現在歯数、無歯顎者・現在歯20本以上の者・現在歯24本以上の者・喪失歯を持つ者 (人数・割合)、性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
13	1人平均現在歯数・喪失歯数、年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
14	現在歯数 (5区分) の頻度分布、年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
15	1人平均現在歯数およびパーセンタイル値、年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
16	1人平均現在歯数の推移 (1957～2022年)、年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
17	無歯顎者率の推移 (1975～2022年)、年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
18	現在歯20歯以上の者の割合の推移 (1975～2022年)、年齢階級別 (45歳以上・永久歯)
19	1人平均現在歯数、地域・性・年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
20	無歯顎者・現在歯20本以上の者、現在歯24本以上の者・喪失歯のある者 (人数・割合)、地域・性・年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
21	1人平均喪失歯数、地域・年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
22	各歯における現在歯のある者の割合、性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
23	現在歯数の頻度分布、性・年齢別 (5歳以上・永久歯)
24	各歯の現在歯数と1人平均値、歯種・年齢別 (5歳以上・永久歯)
25	各歯の喪失歯数と1人平均値、歯種・年齢別 (5歳以上・永久歯)
26	健全歯数の頻度分布、性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
27	健全歯数の頻度分布、性・年齢別 (5歳以上・永久歯)
28	各歯の健全歯数と1人平均値、年齢別 (5歳以上・永久歯)
29	未処置 (D) 歯数の頻度分布、性・年齢別 (5歳以上・永久歯)
30	各歯の未処置 (D) 歯数と1人平均値、年齢別 (5歳以上・永久歯)
31	処置 (F) 歯数の頻度分布、性・年齢別 (5歳以上・永久歯)
32	う蝕 (DMF) 歯数の頻度分布、性・年齢別 (5歳以上・永久歯)
33	未処置または処置 (DF) 歯数の頻度分布、性・年齢別 (5歳以上・永久歯)
34	各歯の処置 (F) 歯数と1人平均値、年齢別 (5歳以上・永久歯)

補綴の状況 (8項目)

1	補綴物を装着している者 (人数・割合)、性・年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
2	補綴完了・一部完了・未処置等の者 (人数・割合)、性・年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
3	補綴完了者の割合の推移 (1963～2022年)、年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
4	補綴物数・補綴歯数・要補綴物数・要補綴歯数、性・年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
5	補綴状況別にみた1人平均喪失歯数、年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
6	補綴完了・一部完了・未処置等の者 (人数)、地域・性別 (15歳以上・永久歯)
7	補綴完了・一部完了・未処置等の者の推移 (1963～2022年)、年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
8	補綴物を装着している者 (人数・割合)、地域・年齢階級別 (15歳以上・永久歯)

歯肉の状況 (10項目)

1	歯肉出血を有する者 (人数・割合)、性・年齢階級別 (10歳以上・永久歯)
2	2005年・2011年・2016年・2022年調査における歯周ポケット (4mm以上) の割合の比較、年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
3	歯肉出血を有する者 (人数・割合) (コードXを除外)、年齢階級・地域別 (10歳以上・永久歯)
4	2005年・2011年・2016・2022年調査における歯肉炎の割合の比較、年齢階級別 (10～19歳・永久歯)
5	歯肉出血の有無に関する1人平均分画数、性・年齢階級別 (10歳以上・永久歯)
6	歯肉出血の分画数の1人平均値、年齢階級・地域別 (10歳以上・永久歯)
7	歯周ポケット (4mm以上) を有する者 (人数・割合) (コードXを除外)、年齢階級・地域別 (15歳以上・永久歯)
8	歯周ポケット (4mm以上、6mm以上) を有する者 (人数・割合)、性・年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
9	歯周ポケットの分画数の1人平均値、性・年齢階級別 (15歳以上・永久歯)
10	歯周ポケット (4mm以上) の分画数の1人平均値、年齢階級・地域別 (15歳以上・永久歯)

歯数の合計値・平均値・標準偏差 (6項目)

乳歯 (3項目)

1	現在歯数 (合計値)、処置の内容・補綴状況・性・年齢別 (1～14歳・乳歯)
2	現在歯数 (1人平均値)、処置の内容・補綴状況・性・年齢別 (1～14歳・乳歯)
3	現在歯数 (標準偏差)、処置の内容・補綴状況・性・年齢別 (1～14歳・乳歯)

永久歯 (3項目)

1	現在歯数および喪失歯数 (合計値)、処置の内容・補綴状況・性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
2	現在歯数および喪失歯数 (1人平均値)、処置の内容・補綴状況・性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)
3	現在歯数および喪失歯数 (標準偏差)、処置の内容・補綴状況・性・年齢階級別 (5歳以上・永久歯)

各歯のコード別分布（52項目）

1	上顎右側乳中切歯（歯番号=51、性・年齢別、1～14歳）
2	上顎右側乳側切歯（歯番号=52、性・年齢別、1～14歳）
3	上顎右側乳犬歯（歯番号=53、性・年齢別、1～14歳）
4	上顎右側第一乳臼歯（歯番号=54、性・年齢別、1～14歳）
5	上顎右側第二乳臼歯（歯番号=55、性・年齢別、1～14歳）
6	上顎左側乳中切歯（歯番号=61、性・年齢別、1～14歳）
7	上顎左側乳側切歯（歯番号=62、性・年齢別、1～14歳）
8	上顎左側乳犬歯（歯番号=63、性・年齢別、1～14歳）
9	上顎左側第一乳臼歯（歯番号=64、性・年齢別、1～14歳）
10	上顎左側第二乳臼歯（歯番号=65、性・年齢別、1～14歳）
11	下顎左側乳中切歯（歯番号=71、性・年齢別、1～14歳）
12	下顎左側乳側切歯（歯番号=72、性・年齢別、1～14歳）
13	下顎左側乳犬歯（歯番号=73、性・年齢別、1～14歳）
14	下顎左側第一乳臼歯（歯番号=74、性・年齢別、1～14歳）
15	下顎左側第二乳臼歯（歯番号=75、性・年齢別、1～14歳）
16	下顎右側乳中切歯（歯番号=81、性・年齢別、1～14歳）
17	下顎右側乳側切歯（歯番号=82、性・年齢別、1～14歳）
18	下顎右側乳犬歯（歯番号=83、性・年齢別、1～14歳）
19	下顎右側第一乳臼歯（歯番号=84、性・年齢別、1～14歳）
20	下顎右側第二乳臼歯（歯番号=85、性・年齢別、1～14歳）
21	上顎右側中切歯（歯番号=11、性・年齢階級別、5歳以上）
22	上顎右側側切歯（歯番号=12、性・年齢階級別、5歳以上）
23	上顎右側犬歯（歯番号=13、性・年齢階級別、5歳以上）
24	上顎右側第一小臼歯（歯番号=14、性・年齢階級別、5歳以上）
25	上顎右側第二小臼歯（歯番号=15、性・年齢階級別、5歳以上）
26	上顎右側第一大臼歯（歯番号=16、性・年齢階級別、5歳以上）
27	上顎右側第二大臼歯（歯番号=17、性・年齢階級別、5歳以上）
28	上顎右側第三大臼歯（歯番号=18、性・年齢階級別、5歳以上）
29	上顎左側中切歯（歯番号=21、性・年齢階級別、5歳以上）
30	上顎左側側切歯（歯番号=22、性・年齢階級別、5歳以上）
31	上顎左側犬歯（歯番号=23、性・年齢階級別、5歳以上）
32	上顎左側第一小臼歯（歯番号=24、性・年齢階級別、5歳以上）
33	上顎左側第二小臼歯（歯番号=25、性・年齢階級別、5歳以上）
34	上顎左側第一大臼歯（歯番号=26、性・年齢階級別、5歳以上）
35	上顎左側第二大臼歯（歯番号=27、性・年齢階級別、5歳以上）
36	上顎左側第三大臼歯（歯番号=28、性・年齢階級別、5歳以上）
37	下顎左側中切歯（歯番号=31、性・年齢階級別、5歳以上）
38	下顎左側側切歯（歯番号=32、性・年齢階級別、5歳以上）
39	下顎左側犬歯（歯番号=33、性・年齢階級別、5歳以上）
40	下顎左側第一小臼歯（歯番号=34、性・年齢階級別、5歳以上）
41	下顎左側第二小臼歯（歯番号=35、性・年齢階級別、5歳以上）
42	下顎左側第一大臼歯（歯番号=36、性・年齢階級別、5歳以上）
43	下顎左側第2大臼歯（歯番号=37、性・年齢階級別、5歳以上）
44	下顎左側第3大臼歯（歯番号=38、性・年齢階級別、5歳以上）
45	下顎右側中切歯（歯番号=41、性・年齢階級別、5歳以上）
46	下顎右側側切歯（歯番号=42、性・年齢階級別、5歳以上）
47	下顎右側犬歯（歯番号=43、性・年齢階級別、5歳以上）
48	下顎右側第一小臼歯（歯番号=44、性・年齢階級別、5歳以上）
49	下顎右側第二小臼歯（歯番号=45、性・年齢階級別、5歳以上）
50	下顎右側第一大臼歯（歯番号=46、性・年齢階級別、5歳以上）
51	下顎右側第二大臼歯（歯番号=47、性・年齢階級別、5歳以上）
52	下顎右側第三大臼歯（歯番号=48、性・年齢階級別、5歳以上）

歯科疾患実態調査の標本設計について

【概要】

本調査は、わが国の歯科保健状況を把握し、8020 運動（歯科保健推進事業等）の種々の対策の効果についての検討や、「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」及び「健康日本 21（第二次）」において設定した目標の達成度の判定や次期計画の目標設定に活用する等、今後の歯科保健医療対策を推進するために必要な基礎資料を得ることを目的としている。

本調査の結果のうち、8020（80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の割合）をはじめとする主要な調査結果について、いずれも標準誤差 2.5%を達成するために必要な調査対象数を算定した結果、調査対象数は約 16,000 名程度、調査単位区は約 320 単位区となる。

本調査で把握する口腔の状況は栄養摂取と深く関連しており、国民健康・栄養調査とデータを連結して多くの情報を収集・分析を行うことを可能とすることから、国民健康・栄養調査と同じ **300 単位区（約 15,000 名）** を調査することを予定している。

【詳細】

(1) サンプルサイズの計算式

$$n = \frac{p(1-p)N}{p(1-p) + \alpha^2(N-1)}$$

n : 必要なサンプルサイズ（ある年代の調査参加者数）

N : 母集団数（ある年代の人口）

p : 母比率（平成 28 年歯科疾患実態調査の結果）

α : 目標精度（標準誤差 2.5%）

(2) 前提となる参加率等

- ・平成 28 年歯科疾患実態調査における口腔内診査の参加率は約 20%であったが、被調査者が参加しやすい時間帯での調査の実施、自計項目により口腔への気づきの促進や、調査会場における口腔内診査の受診を促すための声かけ等の参加率向上に資する取組を行い、**約 25%**まで向上できるようにする。なお、口腔内診査以外の調査事項も含む全体の参加率については、平成 28 年調査の実績は 33%であったが、同年に実施される国民健康・栄養調査における身体状況調査と同程度の参加率（約 40%程度）まで向上できるようにする。
- ・上記(1)で算出した当該年代のサンプルサイズをもとに、令和 2 年国勢調査の満 1 歳以上の人口に占める当該年代の割合を用いて、全年齢（満 1 歳以上）のサンプルサイズを算出する。

(3) 計算結果

8020（80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の割合）を例とした具体的な計算結果は以下の通り。
なお、8020 は 75～84 歳の結果を用いて推計している。

各パラメータの値	説明（出展など）
$N = 12,468,410$ 人	75～84 歳人口（令和 2 年国勢調査の不詳補完結果）
$p = 51.2\%$	8020 の割合（平成 28 年歯科疾患実態調査結果）
$\alpha = 2.5\%$	目標とする標準誤差
$n = \frac{p(1-p)N}{p(1-p)+\alpha^2(N-1)} = 400$ 人	75～84 歳の必要なサンプルサイズ
$c = 10\%$	75～84 歳人口の満 1 歳以上人口に占める割合
$n' = n \div c = 4,018$ 人	全年齢（満 1 歳以上）の必要なサンプルサイズ
$r = 25\%$	口腔内診査の目標参加率
$n'' = n' \div r = 16,070$ 人	全年齢（満 1 歳以上）の調査対象数

他の調査結果についても同様に計算した結果、8020 で計算した調査対象数（16,070 人）が最も多くなったため、必要な調査対象数は約 16,000 人となる。また、1 世帯あたりの世帯員数を約 2.5 人、1 単位区あたりの世帯数を約 20 世帯とし、必要な調査単位区数を求めると、 $16,000(\text{人}) \div 2.5(\text{人/世帯}) \div 20(\text{世帯/単位区}) = 320$ 単位区となる。

一方、国民健康・栄養調査の調査単位区数は 300 であることから、本調査についても国民健康・栄養調査と同じ 300 単位区 を調査することとする。また、300 単位区を調査した場合、調査対象数は、 $300 \text{ 単位区} \times 20 \times 2.5 = \text{約 } 15,000 \text{ 人}$ となると見込まれる。

なお、15,000 人を調査し、参加率 25% を達成すると、標準誤差は 2.6% 程度となると期待されるが、この誤差は許容できる範囲と考えられる。また、参加率の更なる向上を達成できれば、一層の精度向上を見込むことも可能である。

推計方法・目標精度・回収率

・ 標本抽出方法

国民生活基礎調査の調査区に設定された単位区から、300 単位区を無作為に抽出し、当該単位区内の満 1 歳以上の世帯員を報告者とする。

・ 推計方法

集計結果は回答の単純積算であり、推計は加えていない

・ 目標精度

本調査の結果のうち、8020(80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の割合)をはじめとする主要な調査結果について、いずれも標準誤差を 2.5%に設定する。

・ 回収率

前回と同年に実施された国民健康・栄養調査における回収率実績と同程度を想定回収率に設定する。

・ 母集団及び標本の規模

母集団の大きさ：約 1 億 2500 万人（満 1 歳以上総人口）

標本の規模：約 15000 人